

建設労働者300万人の生産性向上へ！ 現場DX「コネクトカメラ」のサービス革新プロジェクト



採択事業者名 **ピクトグラム株式会社**
 コンソーシアム構成員 **株式会社コラボハウス**

勉強会の実施概要	
勉強会の目的	本事業で得られた具体的な活用方法や成果を、県内の同業他社へセミナー形式で共有することで、県内工務店の現場DXを加速させるためのもの
勉強会の当初のゴール想定と結果	【ゴール想定】県内企業に対してセミナーを開催し、サービス認知を図り、トライアル利用へと繋げていく。【結果】約10社に対してセミナーを開催し、数社トライアル利用へと繋がった。
参加者	愛媛県内の工務店が参加
協議アジェンダ	製品サービスの紹介、製品デモを行い、活用事例の紹介を行った。
データに基づく協議ポイントの整理	導入企業における成果の具体事例が、参加企業にとっても実現可能なものであり、取り組みたいと思える内容であるかどうか。また、電話の連絡回数や移動回数が顧客ペインとして存在しており、減らす取り組みをしたいかどうか。
主なデータ項目	移動回数の削減、電話連絡回数の削減
協議におけるガイドライン (含む具体例)	年間棟数、稼働現場数、監督者の人数から監督1人あたりの担当現場数を算出。平均訪問回数、電話回数などをヒアリングし、現在の削減対象業務量を定量的に把握し、削減効果のポテンシャルを数値で示すようにしていく。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	現場DXは参加企業において興味関心のあるテーマであり、取り組む必要があると考えている。一方で、管理体制や規模、地域性など各社の現場事情は固有の課題が含まれるため、実際にサービスを導入して効率化できるかについては、まだ懐疑的な一面もある。導入事例を通じて、費用対効果を数値で示す必要があると考えている。



データ活用・協議の具体例		
	実装前	実装後
重要指標例	当社サービス利用を通じて、以下の2点における業務削減効果が生まれたかどうか 1) 電話回数の削減 2) 現場訪問回数の削減	
データ取得	<ul style="list-style-type: none"> 現場へ訪問し、状況を目視で確認 確認点が発生した都度、職人から監督者へ電話連絡にて確認 	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔でカメラ映像を確認することで、現場環境、進捗等をリアルタイムに確認 ANDPAD連携を活用することで、職人が自発的にカメラ映像を確認
データ利用	<ul style="list-style-type: none"> 監督者によって現場訪問頻度にばらつきがあり、計測ができない状態 	<ul style="list-style-type: none"> アクセス数を確認することで、どの監督者がどれくらい映像を確認しているか、定量的に把握が可能
実行	<ul style="list-style-type: none"> 監督業務は経験に基づく要素が大きく、生産性のばらつきが生まれ、育成に一定期間を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 数日前の過去記録を、1タッチのタイムラプスで再生し、訪問できなかった現場を事後確認 先輩が後輩の現場をカメラで確認することで、新人育成にも活用
協議	<ul style="list-style-type: none"> 映像視聴には、別途アプリインストールが必要な状況となり、映像を見るまでに至らない 	<ul style="list-style-type: none"> 映像のアクセス頻度や量は、人によってばらつきがあるため、カメラ活用度合いが異なる。職人別に映像活用ポイントを資料にまとめ、使い方の周知を行っていく。

データ活用・協議による成果
【項目】 カメラ映像の視聴対象者
【これまで】 現場監督者(活用用途を見出せた一部の監督者)
【データ利活用・協議を踏まえて】 現場監督者(全社)、職人など工事関係者